

ポスター報告 42

原田 和明 大阪成蹊短期大学

#報告題目 依存症のある人への支援を取り入れた刑事司法ソーシャルワークについての一考察

#報告キーワード 依存症 刑事司法 ソーシャルワーク

#報告要旨

1. 研究目的

本研究においては、違法薬物依存のみならず、窃盗、横領等の犯罪を行った人について、その犯罪を起こす要因に依存症が存在していないかという視点でのアプローチによってニーズアセスメントを行うことで、被疑者被告人段階から刑事処分終了後のその人にとってより良い支援の構築を行えるのではないかと仮説について考察を行う。

2. 倫理的配慮

本研究では事例の検討も行っているが、守秘のため必要最小限の事柄のみを提示し、さらに研究に差し障りが無い程度の加工を施している。

3. 本研究における依存症のある人の定義

依存症の診断を受けているか否かにかかわらず、個人エピソードや各自助団体や精神医学会が提示しているスケールにより強く依存症が疑われる人も依存症のある人としている。違法薬物については、診断がなくとも実刑となった経験がある場合は、依存症とする。

4. 研究方法

ケーススタディーとして、支援実践を行なった依存症のある人の事例について、依存症の視点でのアプローチした事例とそうでない事例について、支援計画の内容を比較する。そのことにより、どのようなアプローチが必要となるか客観的に検討する。

6. 考察

薬物依存の使用そのものが犯罪となる場合があるが、支援という視点において刑事処分だけで自立更生に繋がるのか否かを検討する。また、その他の物質依存や行為依存が要因となる犯罪や、性依存や窃盗症などの行為そのものが犯罪となる場合についても、同様に刑事処分だけで自立更生に繋がるのか否かを検討する。結果としてはいずれも治療的アプローチから生活支援につんげていく必要がある。

7. 本研究の継続的課題

結果での検討を行うだけの追跡調査が行えていない、そのため今後、結果での比較検討を継続する必要がある。

参考文献

- 刑事立法研究会編 「非拘禁的措置と社会内処遇の課題と展望」現代人文社、2012
藤原正範、古川隆司 編著「司法福祉」法律文化社、2013
田辺 等 著「ギャンブル依存症」NHK出版 2009
平井慎二 著「条件反射制御法」遠見書房 2015
P・ルヴォーニス/A・J・ヘロン 著 松本俊彦 訳「アディクション・ケースブック」
星和書店 2015
刑事立法研究会 編「「司法と福祉の連携」の展開と課題」現代人文社 2018
竹村道夫、吉岡隆 著「窃盗症その理解と支援」中央法規 2018

